

大震災に思うこと



商学部長

いしかわ
てつお
石川 鉄郎

はじめに、このたびの東北関東大震災で亡くなられた方々に対して心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。また、被災された方々に対してお見舞いを申し上げます。新入生の皆さんはいかがだったでしょうか。ご本人あるいはご家族が被災された方も少なくないのではないかと心配しております。

このたびの大震災は千年に一度という未曾有の大災害であり、自然の猛威の前では人間の力がいかに小さきものであるのかを感じざるを得ません。それは無常とか、不条理という言葉で表される思いでもありません。しかし、私たちは大災害にただ恐れおのき、立ち尽くしているわけにはいきません。自然の猛威に耐えながらも、勇気を持ってそれら乗り越え、前向きに進んでいかなければなりません。

このたびの大震災が私たちに気づかせてくれるもう一つのこと、普通であることの大切さ、平凡である

ことの尊さです。普通でいられること、平凡でいられることの有り難さを感じます。また、それと同時に、普通のことを普通に行うこと、平凡だけれども当たり前のことを当たり前に行うことの難しさ、その重要性を実感せずにはいられません。

新入生の皆さんには、ぜひこれらの学生生活を通じて、自分の専門や好きな学問を見つけて、自分の将来に目標や見通しが持てるように、そしてどんな困難に直面してもそれを乗り越える勇氣や自信が持てるように、精一杯努力していつてほしいと思います。そして、普通のことを普通に、当たり前のことを当たり前に行い、社会に役立つことのできる人間に成長していつてほしいと思います。

最後に、入学式の式典を開催できなかったことをお詫び申し上げますとともに、皆さんのこれからの学生生活が大いに充実したものとなることをお祈りし、ご挨拶の言葉といたします。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

大学生になるということ



理工学部長

いしい
よういち
石井 洋一

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。理工学部の新しい仲間として、皆さんを心から歓迎いたします。

去る3月に、我が国は東北地方太平洋沖地震という大災害に見舞われました。被災した方には衷心よりお見舞い申し上げます。これから、私たちは被害を乗り越えていかなければなりません。皆さんは理工学部での学びを経て、明日の日本を担う人材に成長してくれるものと期待しています。

さて、皆さんは理工学の専門分野についてこれから深く学ぼうとしています。しかし、専門的な学問を修める以前に、心得ておいて欲しいことがあります。それは、大学での学業の前提として「教養ある大人」でなければならぬということです。

「教養」とは、単なる断片的知識の集合ではありません。文化や社会芸術を幅広く理解する精神や人格を意味する言葉です。いわゆる専門的

知識だけでなく、世界の文化や多様な価値観を理解できる、懐の深い人間性を養うことを、ぜひ意識していただきたいと思えます。また、「大人」と言いましたが、これは自分の意見をしっかりと持ち、情報を正しく見極めながら判断をしていける、自立した人格を養ってほしいということです。安易に周りの意見に左右されるようでは、「大人」とは言えません。

「教養ある大人」になるために、皆さんは大学時代にいろいろな経験を積み、良い友人を作ってください。多くのことにチャレンジし、専門外のことも幅広く学んでください。みずみずしい若い感性で、大いに知的好奇心を養ってください。世界で見聞を広めることもいいでしょう。そうした経験が、「教養ある大人」としての皆さんの将来の土台となります。

このように、大学の4年間は、単に専門分野を学ぶだけではなく、自分に投資し人格を陶冶する、大切な時期であることを自覚してほしいと思います。わずか4年間の大学生活を真に実りあるものにするために。